

『理科点字表記解説 2019年版』第1刷・第2刷から 第3刷（2021年2月15日）への変更について

2017年に、日本遺伝学会において遺伝の「優性・劣性」の用語を「顕性・潜性」に変更する提案がされたのに伴い、2021年度使用の教科書から用語が変更されます。そのため、『理科点字表記解説 2019年版』墨字版 p.53（点字版 第1巻 p149）第3部 1 「（1）遺伝子の表現」の本文を次のように変更し、第3刷といたします。

日本点字委員会 事務局

（墨字版 p.53 「第3部 1 （1）」の変更箇所）

（1）遺伝子の表現

遺伝子を表記する場合は、顕性（優性）遺伝子は大文字 $\overset{\cdot}{\underset{\cdot}{\text{A}}}$ を付けた英文字で、小文字である潜性（劣性）遺伝子は $\underset{\cdot}{\text{a}}$ を付けた英文字で表す。英文字が連続しても、この $\overset{\cdot}{\underset{\cdot}{\text{A}}}$ と $\underset{\cdot}{\text{a}}$ は省略せずにそれぞれの英文字に付ける。日本語文中で顕性遺伝子から始まる時は、大文字 $\overset{\cdot}{\underset{\cdot}{\text{A}}}$ の前に外文字 $\underset{\cdot}{\text{a}}$ を付けるが、潜性遺伝子から始まる時は、さらに $\underset{\cdot}{\text{a}}$ を付けることはしない。

以上です。